

2017年(平成29年)5月4日(木曜日)

MiZ

# 普及タイプの水素ガス吸入機

— M H G — 2 0 4 5 —

## ベーシック機能で浸透図る

20年以上にわたって水素分子の医療利用に関する研究開発を手がけるMiZ(株)(本社・神奈川県鎌倉市、佐藤文武社長)では、新型の水素ガス吸入機「MHG-20

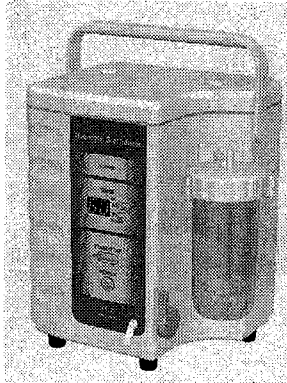
45」の販売が好調に推移している。「MHG-2045」

は、水素ガスを肺や心臓、血液、脳などに素早く行き渡らせることができる使用できる製品として投入した。水素ガス濃度

は約2.0〜2.5%と、既存ラインナップの2製品(MHG-2000、MHG-2000α)に比べてやや低い数値に設定されているが、水素ガスを爆発下限濃度以下に制御する機能は既存製品と

同様に備えている。従来機は、高機能が訴求ポイントとなっている半面、価格面では一般家庭での使用にはハードルが高めとなっていた。「MHG

2045」は、機能面をやや抑えつつ、価格面で手頃感のある「廉価版」という位置づけ。供給量(毎分2リットル)は従来機と変わらず、前面パネルにはタイマー設定(5〜90分の5分間隔)を表示できる。水素ガス発生に使用する精製水と電源があれば場所を選ば



普及タイプのMHG-2045

ず使用可能で、重量は約3キログラムとコンパクトな設計は、従来機と共通している。「MHG-2045」の主な仕様は次の通り。  
▽寸法・W254×L170×H278ミリメートル、▽重量・3.0キログラム、▽供給量・毎分2リットル、▽水素ガス濃度・2.0〜2.5%、▽価格・32万円

普及タイプの「MHG-2045」のほか、同社の主力製品は昨年投入した「MHG-2000α」で、水素ガス発生に必要な電解セルを3槽搭載し、従来品に比べて水素ガス濃度を高めたのが特徴(6.0〜7.5%)。これにより水素発生量は約2倍にアップし、よりスピーディに水素ガスの吸入が可能となっている。同社では、水素ガスが空気と混合される場合の爆発濃度を文献的および実験的に調べた結果、通常の環境下では10%以下の水素ガス濃度では爆発する危険性が極めて低いことを確認している。また、同社では最初に投入した家庭用水素ガス吸入機「MHG-2000」(水素ガス濃度3.0〜3.5%)の販売は今後終了するとしている。